

PBL II-49 日本の「キレイ」プロジェクト2019／Project Based Learning II

担当教員／Instructor 松澤 穰, 京野 弘一

対象学年／Eligible grade - 開講学期／Semester 2019年度／Academic Year 通年／One-Year

授業形態／Type of class

時間割コード／Registration Code PB49 単位数／Credits 2

備考／Remarks

オフィスアワー／Office hours

【サブタイトル／Subtitle】

2019年プロジェクトとともに「日本のキレイ」

【授業のねらい／Course Objectives】

70年以上の歴史を持つ、家庭用、自動車用、業務用のワックス、洗剤製品等の製造販売メーカー株式会社リンレイ。業界のパイオニアでありまた高シェアを誇るガリバーとして、常に新しい需要開拓を続けている。本PBLは、美大のポテンシャルであるアート・デザインが関わることで、商材の枠を超えたメッセージを社会に発信できないだろうかという依頼から始まっている。3年目となる今年度は、「日本のキレイ」のテーマを継続し、その行動の枠をさらに広げ、同社が「東京ブランドアクションパートナー」の認定を受けたことによるそのアクションへの提言、及び西新宿の中央公園内トイレのネーミングライツの取得に伴う、アート・デザイン提案を並行に、さらなるブランドイメージの向上につながり、社会においてより意義深い内容を最終プレゼンテーションにて提案したい。提案は、イベント企画／キャンペーン／プロモーション／アートワーク／商品開発等、多様な可能性があるが、アウトプットの性状を前提とする学科の枠にとらわれず、アイデアに対して最も相応しい媒体を選ぶというまさにPBLらしい柔軟な姿勢で臨んで欲しい。リアリティある作品が期待されるので、プレゼンスキルを身に付けたい低学年はもちろん、就活を控え各自のポートフォリオを飾りたい意欲的な学生にもぜひすすめたい。

【到達目標／Course Goals】

本PBLは、実施を前提とした産学共同プロジェクトである。学外のクライアントに対して自らのリアリティあるアイデアの採用を目標に、本授業で育まれた高度なプレゼンテーションテクニックによって提案する。

【授業の展開計画／Class schedule】

- 1週目【ガイダンス】 プロジェクトの概要説明、進め方、スケジュール確認
- 2週目【オリエンテーション】 クライアントによるオリエン、チームビルディングを目的とした履修者の自己紹介
- 3週目【アイスブレイクを目的とした合宿@純林苑】
- 4週目【2019プロジェクト概要説明】 クライアント（担当者）による2019プロジェクトの概要説明
- 5週目【現地見学】 クライアント（担当者）の引率により現地見学
- 6週目【チームディスカッション（2019プロジェクト）】
- 7週目【チームディスカッション（2019プロジェクト）】
- 8週目【特別講義1】 「日本のキレイ」に関する日本人の宗教観との関連を学ぶ
- 9週目【アイデア提案1（2019プロジェクト）】
- 10週目【プチプレゼンテーション&クリティーク】
- 11週目【チームディスカッション（2019プロジェクト）】
- 12週目【チームディスカッション（2019プロジェクト）】
- 13週目【アイデア提案2（2019プロジェクト）】
- 14週目【学内選考】 クライアントに向けた提案
- 15週目【対クライアントプレゼンテーション（2019プロジェクト）】
- 16週目【制作】
- 17週目【内外の事例研究発表（日本のキレイプロジェクト）】
- 18週目【本社訪問】 企業トップの生の声を聞き、提案への可能性を探る
- 19週目【特別講義2】 アイデア出しへの心得、プレゼの極意（仮）について
- 20週目【チームディスカッション（日本のキレイプロジェクト）】
- 21週目【アイデアのラフ案提出】
- 22週目【中間発表（日本のキレイプロジェクト）】 クライアントに向けた企画発表
- 23週目【制作】
- 24週目【学内プレゼンテーション】 クライアントに向け提案発表（本社最終プレゼに向けた選考）】
- 25週目【アイデアのブラッシュアップ】
- 26週目【プレゼンテーション強化合宿@純林苑】 ゲスト講師によるプレゼンテーションチェック
- 27週目【プレゼンテーションのブラッシュアップ】
- 28週目【G.P.（ゲネラルプローブ）】
- 29週目【本社最終プレゼンテーション（日本のキレイプロジェクト）】 本社にて役員向けプレゼンテーション
- 30週目【PBL成果展設計、冊子エディトリアルミーティング】

【履修上の注意事項／Notices】

学外のクライアントへの提案なので、真摯な姿勢と先方に失礼の無きよう社会的マナーはもちろん、実施に移行後のプロセスにおいても責任ある行動を全うする覚悟を求む。創作行為は決して独りよがりであってはならない。また個人制作の多い各学科独自のカリキュラムとの差別化を図るためにも、「皆が思うこと」というささやかな思考の共振への繊細な感受性を養うため、かつアート&デザインプロセスにおける組織的な振る舞い方を体得するためにも、授業の進行においては、チームでの議論を重んじる。最終プレゼンテーションへは、個人での提案を原則とするが、チームでの参加も妨げない。また、産官学共同によるプロジェクトにつき、クライアントの意向により、授業内容は変更することがある。

【評価方法／Evaluation】

授業態度等の平常点=30%、課題作品評価=50%、最終プレゼンテーションでの評価=20%

【テキスト／Textbooks】

特になし

【参考文献／Bibliography】

授業内で提示

【準備事項／Preparation】